

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	文学部・大学院文学科・専攻		
留学先機関名	フライブルク大学 (国名： ドイツ)		
参加プログラム 区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他：		
留学期間	2019 年 3 月 4 日－ 2019 年 3 月 29 日	留学開始 時学年	<u> 2 </u> 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業 (熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 <input type="checkbox"/> その他 ()		

1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類()	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()語		
勉強方法	単語や日常会話を中心に、テキストを読んだり聞いたりした。		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	<input type="checkbox"/> プログラム費用 90000 円 <input type="checkbox"/> 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 50000 円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 円 <input type="checkbox"/> 渡航費(□片道■往復) 85000 円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 20000 円 <input type="checkbox"/> 食費 30000 円 <input type="checkbox"/> その他(お土産代、旅行費等) 60000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	中国東方航空	手配	エアトリ ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡空港→上海浦東空港→ フランクフルト空港→フ ライブルク	到着 時刻	午前 6 時 【※移動時間(約 21 時間)】
大学(寮)への 移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> 公共交通機関(□バス □電車) □その他(徒歩)		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	フランクフルト空港はターミナル 1 と 2 があり、フランクフルト 空港駅への行き方がターミナルによって違う。空港駅からフライ ブルクまでは ICE で 2 時間くらい。回数券でなければ 8000 円ほど。		
宿泊先	<input checked="" type="checkbox"/> 寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ その他()	宿泊 手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	<input type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 そ の 他 (四 人 部 屋)	ルーム メイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの学生 その他(フライブルク大学の 学生)
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	クレジットカード(あるいはプリペイドカード)と現金どちらも 必要。(ドイツはカード不可のところもある。現金不可のところ はない)トイレが有料だったりドイツ鉄道の自動券売機で小さな お金が必要だったりするので、小銭に両替しておいた方がいい。 保険は海外旅行保険だけで十分だと思う。携帯電話は、海外用 Wi-Fi を持って行くか SIM カードを入れ替える。		

3. 留学先の大学について

<p>プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）</p>	<p>事前にネット上で受けたテストでクラスが分けられる。3/4～3/29のプログラムで、授業は3/5から。オリエンテーションの後に行われた。90分を2コマで、午前中で終わる。午後の演習もあるが希望者のみ。自習室がありドイツ語を勉強できる。授業後のクラス変更も可能。内容は、クラスによって違うが、A1はアルファベットや挨拶、基本会話など、基礎的な内容で、日本人がほとんど。A2は基本的な文法の確認が中心のクラスから、ドイツ語でのディスカッションなどを行う上級レベルのクラスまである。B1からは少し専門的な内容になる。私のクラスはA2の基礎の確認が中心のクラスで、先生は分かりやすいドイツ語で授業をしてくれた。ペアワークがあり、聞く、話す为中心。三週目の最後にテストがあり、出席とテストの結果、授業中の発表などで評価が決まる。授業は3/27までで、28日は修了式。</p>
<p>留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）</p>	<p>プログラムのスタッフの方は、ドイツ語と英語どちらも話せるので、手続き等で困ることはなかった。日本人のスタッフの方もいた。クラスの先生は分かりやすいドイツ語で話してくれ、難しい説明などはドイツ語と英語どちらでも話してくれた。授業後には大学主催の企画を用意してくれていた。学生専用の交通機関利用し放題のカードや、学生証を貸し出してくれ、大学のカフェなどで割引がきいた。寮は清潔でセキュリティ対策もしっかりしていた。</p>
<p>留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学IDの設定等）</p>	<p>学生証を渡されたが、特に手続きは必要なかった。いくつかの書類に署名をしたが、寮での規則やプログラムの内容への同意といった書類だった。履修登録などはなかった。</p>
<p>休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に</p>	<p>大学主催のプログラムに2回参加した。その他は、日本人の友達とフライブルクの近くの観光地に出かけた。週末は自分たちでホテルを予約して、遠出したりした。大学のプログラムは、初日のオリエンテーションでも説明されるが、大学のオフィスに行って予約できる。自分たちで観光する場合は、ICEは高いので、フリックスバスを使うと安い。プログラムに参加すれば、他の国の学生と会話したり、仲良くなったりできる。ルームメイトは、休暇中ということもあり旅行に行っている人もいて、あまり関わることはなかった。フライブルクはフランスに近いので、週末はフランスに行ったり、ミュンヘンに行ったりした。平日の授業後はフライブルクの市街地で買い物をしたり、スーパーで買い物をしたりした。</p>

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

ドイツ語をドイツ語で説明される、どこに行ってもドイツ語しか聞こえない、英語かドイツ語でしかコミュニケーションが取れない、周りの店や看板はほとんどドイツ語という環境で1ヵ月を過ごしたので、日本でドイツ語を学習していた時はなかなか身に着かなかった基本的な単語の意味や会話の意味などが自然と頭に入ってくるようになった。ただ、ドイツ人はほとんどの人が英語も話せるので、日々のコミュニケーションにはさほど困らなかった。基本的に自分から動かないといけない。やりたいことがあったらとにかく行動して、分からなければ周りの人に聞いてみる。日本にいる時よりも能動的に行動できるようになった。ドイツは全体的にゆとりがあって、言葉が満足に通じなくてもあまりストレスを感じなかった。特に労働環境に関しては、日本の労働環境に対して課題を感じる部分がたくさんあった。自分の就職活動や将来を考えることができた。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）

自分のレベルに合ったクラスで学習することができれば、自分のドイツ語のレベルが上がったことを自覚できて自信にもつながるので、難しすぎる、簡単すぎると思ったら遠慮なく先生に相談することが大切。日本人も多いので不安なことがあれば、日本人の友達に相談することもできる。授業も大切だが、ドイツの文化、生活に触れるだけでも、たくさんの刺激があるし、リアルなドイツ語に触れることができるので、積極的にいろんなところに行く方がいい。日本よりも他人との距離が近いので、挨拶をすることを心掛けるだけでコミュニケーションがスムーズにとれるようになる。日本人の感覚として受け入れられないほどの文化の違いはないので、あまり考えすぎずに生活すればいい。ドイツの食事は美味しいが、もし口に合わなかった時や日本食が恋しくなった時のために非常食があると便利。基本的に、日本独特の物でない限り、日本にあるものはドイツにもあるので、ドイツに行ってから必要なものを買う方が、荷物が増えすぎずいいと思う。治安もいいので当たり前なのに気をつけていれば危険な目には遭わない。交通機関を利用するときは、事前に何時のどの電車に乗るかなど、調べておいたほうがスムーズ。ドイツの交通機関は、大都会でなくても結構発達しているので、東京や大阪くらいの感覚でいた方がいい。また、改札がないので一見無賃乗車できてしまいそうだが、電車に乗った後に車掌さんが乗車券を確認しに来る時があり、持っていなかったら罰金をとられるので必ず買っておくこと。その際、打刻が必要な乗車券と必要ない乗車券があるので、確認すること。

留学を通しての感想

ドイツに行くのは2度目だったが、今回は1ヵ月滞在したことで、ドイツの生活により触れることができた。ドイツ語での授業は新鮮で、リスニング、スピーキングの重要性を再確認した。リアルなドイツ語に1ヵ月触れることでドイツ語が身近に感じた。また、日常会話や簡単なドイツ語が自然と頭に入ってくるようになったことも嬉しかった。何より、ドイツの文化や生活はやはり日本とは全く違い、自分の日本での生活を改めるきっかけにもなった。ドイツの文化を受けて日本の良さを感じることもあれば、日本の課題を感じることもあった。ドイツ人と日本人の気質が似ていることもあって、日本では見慣れないものや取り入れられていないものに対しても、あまり抵抗を感じず受け入れることができた。特に、スーパーなどの、観光だけでは触れることのできなかつた日常的な労働現場を目の当たりにして、ドイツ（ヨーロッパ）の労働環境がいかに整っているかを痛感した。さらに、学生はもっと自由で、好きなことを勉強し、好きなことに惜しみなく時間を使っている印象があった。一年後私も就職活動をしなければならないが、就職活動や将来どんな仕事に就きたいか、自分の人生で重視していることは何か、何に時間を使いたいかなどをしっかりと考えるきっかけになった。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	Bさん		
所属	熊本大学 文学部 文学科		
留学先機関名	フライブルク大学 (国名： ドイツ)		
参加プログラム 区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他：		
留学期間	2019年3月4日－ 2019年3月19日	留学開始 時学年	3 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業 (熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 <input type="checkbox"/> その他 ()		



1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類()	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	<input type="checkbox"/> 英語 <input checked="" type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()		
勉強方法	独語学演習の受講		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	<input type="checkbox"/> プログラム費用 84,500 円 <input type="checkbox"/> 宿泊費用(ホームステイ) 45,500 円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 円 <input type="checkbox"/> 渡航費(<input type="checkbox"/> 片道 <input checked="" type="checkbox"/> 往復) 172,450 円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 25,000 円 <input type="checkbox"/> 食費 20,000 円 <input type="checkbox"/> その他(その他交通費、土産等) 100,000 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ルフトハンザ航空	手配	トム・ツーリスト ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡空港→羽田空港→ミュンヘン空港→バーゼル空港	到着時刻	3月2日 19:00 【※移動時間(約18時間)】
大学(寮)への 移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関(<input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車) <input type="checkbox"/> その他()		
空港から移動する際 の注意点 行き方、料金等	バーゼル空港からフライブルク駅までは、高速バス FlixBus で1時間程度。€23。		
宿泊先	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ その他()	宿泊手配	<input type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input checked="" type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他()	ルームメイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの学生 その他(スリランカ家庭)

<p>その他生活に必要な手続き、アドバイス (口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など)</p>	<p>VISA プリペイドカード (MoneyTGlobal) を使いました</p>
---	--

3. 留学先の大学について

<p>プログラムの概要について(授業・フィールドワーク内容、スケジュール等)</p>	<p>3月4日 大学受付 3月5日 オリエンテーション、授業開始 (ドイツ語 A2 クラス) 3月7~10日 ベルリン 3月12~18日 卒業研究用データ収集 3月20日 早期帰国</p>
<p>留学先大学でのサポート体制について (語学面/学校生活/住居・日常生活等)</p>	<p>到着後すぐに、現地で使える1ヶ月定期の学生割引証明書をもたらる。 放課後や週末の課外プログラムも充実。 困ったことが起きた時はメールをすると、英語でもドイツ語でも親身に対応してくれる。 学内施設で使えるプリペイドカードが貸与される。</p>
<p>留学開始後に行った留学先大学の手続き (学生証、履修登録、大学IDの設定等)</p>	<p>仮学生証の作成 (法的効力はおそらくないが、プリペイドカードと併せて主張すると、美術館等で学生割引してもらえる)</p>

<p>休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に</p>	<p>3月3日 ホストシスターと友人がダンスの動画を撮るのに同行 3月5日 日本のカレーを振る舞う 3月7~10日 ホストファミリーがベルリンを訪れるのに同行。博物館やベルリンの壁を見たり、トラベルトレードショーを訪れたりした。 3月11日 日本の蕎麦を振る舞う 3月12日 日本人学生とドイツのレストランを体験 3月13日 近隣住民が小学校や保育園に集まって夜体操やヨガをするのに連れて行ってもらう 3月16日 日本料理店「Oishii」にファミリーとホストブラザーの友人と行く。その後 Titisee という湖にホストマザーと小旅行 3月17日 定期券で行ける端(Basel)から端(Offenburg)まで電車旅行 3月18日 日本人学生をステイ先に招待</p>
--	--

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関する事、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

今回は1年ぶり2回目のフライブルク滞在であったが、特に印象に残った出来事が2つあった。一つは、些細な誤りを恐れてコミュニケーションを最小限にしようとする日本人マインドが通用しないこと。ドイツ到着翌日で言葉が出てこず、シスターの友人とドイツ語どころか英語でもうまく話せなくて落ち込んだ帰りのバスで、老夫婦と乗り合わせた。フライブルクでは他者との距離感が日本とは大きく異なる。道ですれ違う時や隣や向かいに座る時、買い物するときに必ず挨拶するのである。しかしこの時の私はどうせ話せないだろう、と軽く微笑むだけで済ませようとした。ところがおじいさんが構わず話しかけてきたので、私はドイツ語があまりできないことを伝え、たどたどしい英語で返した。話は盛り上がり、翌日行われる春を祝うパレードのこと、日本の花見のこと、話は飛んでおじいさんの3歳になる孫のこと、おばあさん手作りのおじいさんの携帯ケースのことなど、お互いのスマートフォンの中の写真を見せあいながらずっと話し続けた。同じバス停で降りたのだが、別れ際には私の心持ちは十数分前とは全く異なっていた。ドイツ語で別れの挨拶をした。

二つには、世界を巻き込んだ事象を目の当たりにしたこと。3月15日という日は、全世界123カ国の若者が立ち上がり、環境政策の推進を求める全世界同時デモを行った日だ。フライブルクもその例外ではなく、授業中、窓の外から大音量の音楽と大勢の人の声が聞こえてきた。日本でも東京・京都でこのデモがあったらしく、この活動への賛否は別として興味を持った。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する事、生活全般に関する事など自由に記載してください）

治安が日本とは少し異なるので、スリや置き引き、暴力には常に気をつけていなければならない。だからと言って四六時中緊張している必要はない。気をつけていて、周囲をよく見るなど気をつけていることを周りにアピールさえしていれば夜間に一人で歩くこともできる。現地の言葉で買い物ができるようになるととても楽しい。人に道を聞くことができるようになるとなお楽しい。

日本とは異なり、どこから何を撮っても景観が美しく、自然も豊かだ。ぜひ寮や部屋に閉じこもらず、積極的に外へ出てほしい。何もすることがなかったとしても、そこら中に散歩をする人、公園でまどろむ人がいる。あなたを知っている人はほとんどいない。何かをしている必要はない。あなたはその街で自由なのだ。

スウェーデン以外では卵の殺菌処理がうまくなされていない。殻の中までサルモネラ菌がいる可能性があるので、生卵や半熟卵を食べる習慣はほとんどないようである。

りんごは皮を剥くどころか切る必要がない。まるまんま齧って食べるのはなかなかクセになるのでぜひお試しあれ。

留学を通しての感想

日本でどれだけ現地について勉強したとしても、行ってみなければわからないことはあまりにも多い。例えばドイツの公共交通機関の切符の買い方・使い方なんて、実際に行ってみなければおそらく理解できないだろう。世界は本当に広いのだ。

世界は広いとはいえ、私たちは現在、行こうと思えば大抵の場所にはどこへでも行くことができる。これからは是非どこへでも行ってあらゆるものを見て聞いて、広い世界で自由に生きる自分を実感し続けていきたい。